

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673200263		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム京田辺		
所在地	京都府京田辺市興戸郡塚57-3		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&JigyosyoCd=2673200263-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が個々にできる事・できない事を全職員で話し合い できる所が維持できる様に見守り関わっている。
 また、利用者と共に地域に根ざし共に生きていく観点から夏祭りを事業所で毎年開催し多くの住民の皆様に来ていただいている。ボランティアの方も裏の畑作業を手伝っていただくなど共に支え合って生活を行なっている。
 更なる交流を目指しカフェの開催を検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開設より8年を迎え、地域に密着したホームでありたいとの思いから、地域交流を大切に、毎年盛大に行う夏祭りも地域への浸透が進み、新たな取り組みとして「なごみカフェ」を開催し地域に開放するなど、さらに開かれたホームとなるよう努めています。「楽しく支えあい生きる」と理念に込めた思いを実践する為に、利用者に関わる際の職員心得を皆で作成し、全職員が心得を守れているか日々振り返っています。それぞれのケアの場面では、一人ひとりの尊厳を守る事を何よりも大切に、利用者と同じにすることや、自分の親と置き換えて言葉かけに配慮する等を定め、敬語や丁寧な言葉使いが自然になされています。職員の笑顔とゆったりと関わる態度からホーム全体が和やかな雰囲気になり、利用者は職員に信頼を寄せ安心した穏やかな表情で過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもとに、「楽しく支え合い生きる」事を職員で考えホームの理念として定めている。職員間のみならず地域に向けても共に支え合う精神で取り組んでいる。	法人の理念の基ホーム独自の理念を作り玄関に掲示し、理念に込めた思いを職員が共有しています。互いに支えあいながら、地域と交流し楽しく過ごせるように努めています。また利用者一人ひとりの居場所を提供できているかをカンファレンスで話し合い振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは道で会えば挨拶し、朝の登下校の際 子供たちにも声を掛けている。また、ホームの畑に週1回ボランティアさんが来訪。行事等にも参加して頂き交流の場となっている。	ホーム前は小中学生の登下校時の通学路で、利用者はベンチに座って挨拶を交わし合っています。ホーム主催の夏祭りは盛大に行ない、子供らの参加も多く地域に定着しています。ボランティアが畑の菜園作りや行事の手伝い等に積極的に関わり、地域交流の場になっています。また地域との繋がりを深める取り組みとしてカフェも始めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度 認知症サポーター講座を実施し認知症の方の理解に努めている。又 月に一度、地域の方に向けて喫茶を開催し交流を図る場をもち、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家人・民生委員・地域包括支援センター職員が参加し2ヶ月に一度行っている。ホームでの行事や状況を伝え、市役所・民生委員・地域包括の方と情報交換している。また、訪問看護師の参加や昼食会などを行い参加人数が増える取り組みを行っている。	会議は、市の担当者や民生委員、家族等の参加を得て開催し、近況報告を行い意見交換をしています。市から他の施設の災害訓練の取り組みを聞き、加湿器や電気毛布の取り扱いのアドバイスをもらったり、地域包括支援センターから体操教室の案内があり、管理者が参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着合同会議が定期的に行われている。又市の職員も参加され、京都市のグループ協議会でのネットワークなどについて話され学ぶ機会となっている。	運営推進会議に市の担当者も参加し、議事録は市へ直接届けています。市も参加するグループホーム協議会や地域密着合同会議に参加し、情報交換をしています。市民案内や郵送で市の研修案内が届き、参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに玄関は開放されている。リビングからは玄関が良く見え開放的な作りになっている。外に出られる利用者にも後ろからそっと付き添い見守っている。職員も身体拘束については繰り返し研修が行われている。	身体拘束について法人の研修を受け、全職員に身体拘束をしないケアの実践を周知しています。言葉による制止についても理解し行動制限せずに見守るようにしています。玄関は開錠され自由に出入り出来、庭やベンチで気分転換を図られる時や外へ行かれる時は、そっと見守り付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に参加し虐待について学んでいる。また、入浴時等にアザや傷ができていないか確認し注意を払っている。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修が年1回開催され学ぶ機会になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、説明し契約している。入居1ヶ月で家族に入居時の説明等のアンケートをとり、退去時にも同様アンケートをとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・職員にアンケートを実施している。要望等があれば記入して頂き運営に反映させている。	家族が、全ての職員に何でも話せる環境を大切にしています。面会時や電話で日々の状況を伝え、意見や要望を聞いています。利用者とのコミュニケーションを多く取り、思いを汲み取り、意思表示が出来る関係性の構築に努めています。またアンケートの実施やチェックリストで事業所評価を行い、満足度の向上に向けて取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンス・アンケートの実施を行い職員の意見・提案を聞きケアに繋げている。	職員間の日々のコミュニケーションを大切にし、意見しやすい雰囲気作りを心がけ、管理者からも職員の意見を聞くようにしています。月1回のカンファレンスやアンケートの実施、自己評価等で意見や提案を聞いたり、非常勤職員は更新時に面談で聴き取りをしています。職員から出された提案はまず実践してもらい、結果を検討して運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回事業申請書を元に面談を行い意見を聞いたり、日々の関わりの中から職員一人一人の状況を把握し、声かけを行う事で向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量評価を実施し、力量の把握に努め研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域合同会議にて情報交換や他施設にも利用者と共に訪問又夏祭り等にも着て頂き交流の場となり、日々の質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々関わる中で利用者の表情・言葉・行動を見ながら困っている・不安等職員で情報を共有し関係作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の方に困っている事・不安・要望等を聞き又ケアプラン変更時に話をし関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスにて家族の要望を聞き、ケアプランについて検討、見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる部分を見極め、できる事はして頂き、できない事に対して援助し関わっている。又職員のできない部分を助けてもらいながら共に生活し関係を築いている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはできるだけ会話し 利用者の日々の様子を報告 家族との関わりを大切にした入る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られて際、ゆったりと会話ができる環境や遠方に居られる方にはハガキなどを送り関係が途切れないように努めている。	知人の来訪時には、気がねなく寛いでもらえる場所へ案内しゆっくりしてもらっています。以前の勤務場所や自宅周辺をドライブして昔の思い出話に傾聴しています。利用者の希望で自宅へ行き、愛犬に出会い写真を取り家族からも喜ばれています。ハガキが届いた時は返信ができるよう支援し、これまでの馴染みの関係が継続出来るよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけリビングに出てきて頂き、職員も間に入りながら会話やレクレーションなど他の方と関わられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡など行い 相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に、本人及び家族に希望を伺っている。 日々の記録から抽出して、相談している。	入居前の面接で本人・家族から聞き取りを行い、生活歴や現在の状況、思い等をアセスメント用紙に記入し把握しています。日々の関わりでの気づきや情報を介護記録に記載し、計画作成者が定期的に再アセスメントしています。把握が困難な時は、関わりながら表情や態度から思いを汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所後に、センター方式にて情報を集めて、本人らしい生活の把握に努めている。 本人や家族からの聞き取りにて、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や24時間シケアシ記録等を活用し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	希望用紙と言う形で、本人・家族、及び関係機関(医師や看護師)より意見をまとめて、介護計画に反映している。	本人・家族の思いや意向とアセスメントを基に、計画作成者が職員が記録した生活援助計画書をまとめ、カンファレンスで話し合っって介護計画を作成しています。初期の介護計画は1ヶ月後に、その後は3ヶ月から1年で見直し、モニタリングは全職員で行っています。医師や看護師の意見は往診対応記録で情報交換し計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載し、引継ぎ時に申し送っている。 定期的な見直し時に再検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶や図書館、自宅の様子を見に行く等、必要に応じて援助を行っている。資格試験の付き添いなど(一緒に)行っている。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民(ボランティア)・消防署職員や図書館等、様々な機関を利用して総合的に援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、今までの医療機関を継続利用して頂いている。特に希望が無い場合は、当事業所と契約している医療機関に協力を得ている。専門医療機関は、在宅時にかかっている医療期間の継続利用が多い。(歯科・眼科など)	契約時に今までのかかりつけ医を継続出来る事や往診医について説明し、決めてもらっています。かかりつけ医や専門医療機関の受診は家族が付き添い、時には職員も対応します。月2回往診医の診察と希望者には歯科衛生士が週1回訪れ、受診してもらっています。訪問看護師が利用者の身体状況や様子を詳細に記録し、24時間連絡が取れる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師に相談する機会があり、その際に報告・相談・指導の機会がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人として、地域連携課職員(対外活動専門職員)を配置し、また管理者や計画作成者も医療機関相談員と密に連絡を取る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『みとり』について説明を行っている。該当ケースが発生した場合は、環境を整えて終末期対応ができる様に、と言うのが法人として基本の方針である。	入居時に看取りの方針について説明し、医師、看護師、家族等の協力があれば看取りの支援ができることを伝えていきます。重度化や看取りの時期等含め、医師が家族に説明をし、意向を都度確認しています。法人内で看取りについての研修を受けるとともに、今後対象者があれば学習会も行う予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修参加及び、法人共通のマニュアルに沿った対応を行うようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消防訓練を隔月に行い、災害に備えている。	年2回、消防署の協力の下で訓練を行い、評価してもらっています。また昼夜を想定した自主訓練も隔月に行い、初期消火や通報、避難経路の確認、避難場所、避難誘導等の訓練をしています。運営推進会議で議題に挙げ、地域へも参加を呼びかけています。地域の防災訓練には参加するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所としての理念を設けて利用者の対応に配慮している。 勤務に入るたびに、理念の唱和と実践を行っている。	年1回、尊厳やプライバシーについて法人で研修を受け周知しています。職員間で話し合い作られた「職員心得」を意識し、利用者と接する各場面では、目線をあわせ気持ちに寄り添った対応や、移動・移乗時に於ける声かけ等、尊厳を守るケアを心がけ、厳守されているか皆で振り返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンやクローズドクエスチョン等、質問の仕方・時・場合等に配慮して援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに準じた生活が過ごせるように、まずは本人の生活リズムをリサーチする援助を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に何度か、本人に似合うような服をプレゼントする機会がある。家族に着慣れた服を持参してもらっている。隔月の訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に尋ねたり食物残渣の量から好みを調査している。 準備・片付けは、利用者に応じて一緒にやっている。	献立は、利用者に食べたい物を聞いて職員が1週間ごとに立て、食材は業者から届き、足りない物をスーパーで買い足しています。下準備等利用者が出来る事を一緒に行い、菜園で作った野菜も利用しています。誕生日の方に希望を聞いた献立や趣向を凝らした行事食、全員での外食や個別の外食支援等を取り入れ、食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や摂取量は個人によって変更している。また、変化が認められる場合は申し送りにて、後の勤務者に引き継ぎ対応している。排尿状況などとも連携して、水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後等、口腔状態に合わせて、歯ブラシやスポンジ・拭き取りシートなど、必要に応じて対応している。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて個人の排泄間隔を把握するように努めている。利用者のサインを読み取り、適宜排泄誘導を行なっている。	トイレでの排泄は、尊厳を守る基本的なケアであると捉え、排泄表で個々のパターンや習慣を把握し、サインや表情、行動からも察知して声かけや誘導を行なっています。重度化しても歩行介助の支援を行ない、筋力維持向上に努め、夜間もトイレ誘導をしています。退院後もオムツを止める支援に取り組み、利用者の自信回復へ繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体質把握に努め、バナナや牛乳と言った食品を摂ってもらい対応している。緩下剤を服用する場合もあるが、水分摂取に気をつけた対応、またトイレに座って排泄体勢になれる様に援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やその方に応じた時間に入浴の援助している。	午後から夜にかけて順番を決めず声を掛け、2日に1回位で入浴してもらっています。その方のペースで自由に入浴してもらい、声かけや見守り時も同姓介助の有無を聞いています。一人ひとり湯を変え、柚子を用いる等季節湯も楽しんでいます。拒否された時は、寝る前の入浴を検討し、夜間の入浴で拒否なく入浴ができるようになり、その方の習慣に合わせた入浴の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休憩(臥床)する時間や、就寝時間は個人で様々である為、沿った対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ごとに、薬の説明シートに目を通して確認している。 利用者の服用し易い形態を考慮して、錠剤・顆粒・細粒と変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦から役割・楽しみごとを模索し、活動表などにも取り入れながら気分転換の場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物や図書館・喫茶などに出かけている。また、資格試験の為に年に一度、京都市内に一日掛けて出かけている。	喫茶店や図書館、買い物に出かけたり、交通機関を利用し京都検定試験を受けに行く等、個別の外出支援を行っています。利用者のその日の気分次第で近辺を散歩したり、ドライブに出かけ、全員が戸外で過ごせるよう取り組んでいます。バスを使い家族やボランティアも参加して、春と秋に遠足に出かけ花見や外食を楽しんでいます。	

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理してもらっている利用者もおり、買い物時はおやつ等を買える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使い、深夜帯以外は使ってもらっている。家族からの手紙に対して、返事を書けるように、職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の写真等を掲示して、季節に応じたコーディネートを行っている。室温・湿度計、遮光カーテン・TVの音など、刺激になり過ぎないように配慮している。	玄関通路や畑に季節の花や野菜を植え、随所にベンチを置き、寛げる空間を作っています。下駄箱に生花や造花を飾り、花を話題にした会話を楽しみながら季節感を感じてもらっています。ソファコーナーや小さな円卓が置かれた畳のコーナーが利用者の落ち着ける家庭的な空間となっています。温度、湿度の管理、清潔にも気を配り、居心地よく過ごせるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い物同士、一緒のスペースで過ごせるように配慮したり、職員が仲を取り持つように援助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の使い慣れた家具・配置を配慮して、居室を過ごし易いようにコーディネートしている。	押入れのある畳敷きの和室と洋室があります。居室入り口には自宅から持参した表札を掛け、ベッドや家具等も全て使い慣れた物を持って来てもらい、自宅と同じ環境になるよう家族と配置を決めています。馴染みの机や椅子、テレビ、棚等を備え付け、和柄の小物や家族の写真を飾り安心して過ごせる居室となるように配慮し、掃除や室内の換気にも留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の関わりの中でできる事・できない事を把握してできる部分にはご自身でして頂く援助を行い自立した生活が送れるようにしている。		